市川のまち 地名の由来

No.30

南北朝時代の文書に

大野町・南大野

市川北高校側から大野台地を望む。中央が市川五中

大野の地名は、日本各地にみられます。しかし、その起源については、はっきりしたことが分かりません。地名としてはかなり古く、福岡県には天智天皇のときに築かれた大野城があります。これは、今から千三百二十四年も前のことになります。

さて、本市では、大野が記録に現れるのは南北朝時代のことです。それは真間山弘法寺に伝わる延文三年（一三五八）の文書で、ここに初めて「大野」の地名が見られます。また、康暦二年（一三八〇）の浄光院文書には、「八幡庄大野郷」と書かれています。しかし、実際には、もっと古くからあった地名だと思われます。

即ち、日蓮聖人に帰依して館の外に安国寺を創建した曽谷教信は、建治三年（一二七七）に大野に移り、法蓮寺を建立して晩年を過ごしました。また、教信の娘の芝崎姫は、正応四年（一二九一）、大野に礼林寺を建立するなど、大野は曽谷氏と強い関係を持った地域になりました。今、第五中学校を中心とした地域を「城山」と呼んでいます。実際、この地域には土塁、空堀などが存在しました。そして、殿台、殿内、御門、迎米、一の谷、二の谷、楯ノ下、馬寄場など城郭に関係した字名が残されてきたことから、かなり大規模な城跡を推定させます。こうしたところから、この城山は、平将門が下総西部を鎮圧するための出城として築いたものであるという伝説が、この城跡と結びつけて伝えられてきました。しかし、現在では、城跡の遺構などから見て、戦国時代のものとみられています。

江戸時代、この地は駿河の田中藩領になっていましたが、明治に入り大柏村に属し、昭和二十四年市川市に合併しました。そして、同三十七年に市営霊園を開設し、四十八年には大野区画整理組合を設立して、低地地帯の整理事業が行われました。そこには、パークハイツ、グリーンハイツなどの高層マンションが建設され、周囲に低層建築地帯も設定され、五十三年には武蔵野線が開通して市川大野駅が開設されました。

本市では、自然環境保全のため、大野の台地に深く入り込んだ長田谷津とその周辺斜面を「大町自然公園」として、昭和四十八年に開園しました。これが、現在の「自然観察園」です。

南大野は昭和六十一年六月、住居表示の実施で大野町一・二丁目を中心に下貝塚、北方町四丁目、奉免町の一部をもって、南大野一・二丁目として誕生しました。

次回は「湊・湊新田」を予定しています。

（社会教育指導員　綿貫喜郎）